



*A ta santé*

フランスに  
乾杯  
グラスいっぱいのお酒を

フランス観光開発機構  
2019年度キャンペーン  
プレス資料

  
France.fr

## avant-propos

# キャンペーン始動によせて

2019年の観光キャンペーンは「フランスに乾杯! グラスいっぱいの芸術を」と題し、地域性に富んだアートと銘酒に触れる旅を提案いたします。

旅の醍醐味が異なる地域性の発見にあるとすれば、アートもお酒も、それが明確に表れるものだからです。

印象派が生まれたノルマンディーには変わりやすい天候、つまり晴天と曇天が目まぐるしく変わり、繊細な光の揺らぎがあったからこそ、画家たちはその刹那をキャンパスの上に捉えようとしたのでした。今もルーアン大聖堂前やエトルタの海岸に行けば、彼らが絵の中で永遠のものにしようとした、刻一刻と変わる光と影の移ろいを感じることができます。

また、「フランスの庭」と呼ばれるサントル・ヴァル・ド・ロワール地方では、ロワール河流域に広大な森林が広がっていました。それは王族や貴族が狩猟をたしなむための城館を開くのに最適な土地であったことを意味します。そこにルネサンス文化が持ち込まれ、絢爛な城館の建設や装飾性に重きをおいた庭園造成が芸術の域にまで高められるに適した土地があったのです。

一方、各地で楽しめる様々なお酒もアートのひとつです。土壌、気候、その土地にあった独自の製法、いわゆるテロワールが、まったく異なる味や性格のものを生み出すお酒は、その繊細さと複雑さからグラス一杯の中に凝縮されたアートと言えます。「テロワール」という言葉がいまや日本でも食やワインを語るうえで普通に用いられるようになっているのは、日本にも元来バラエティ豊かな郷土料理と地酒があり、それへの興味が非常に高いことが背景にあるからでしょう。日本のお菓子ブランドがご当地バージョンを数多く発表し、デパートの全国駅弁フェアがいつも賑わっているのも、日本の皆様のテロワール愛の強さの表れなのかもしれません。このようにテロワールへの深い探求心を持つ日本の方々、きっとフランスのアートも同じように繊細な感覚で楽しんで下さることでしょう。

絵画を生む作業も、銘酒を生む作業も、すべて「アート」。ぜひ、次の旅ではアートに酔いしれて (*Ivresse de l'Art*) みてください。

フランスに乾杯!

2019年4月



フランス観光開発機構 在日代表  
フレデリック・マゼンク

## sommaire

### 目次

キャンペーン概要	4
ピックアップ・デスティネーション	
ノルマンディー地方	6
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方	12
パートナー企業・団体	18

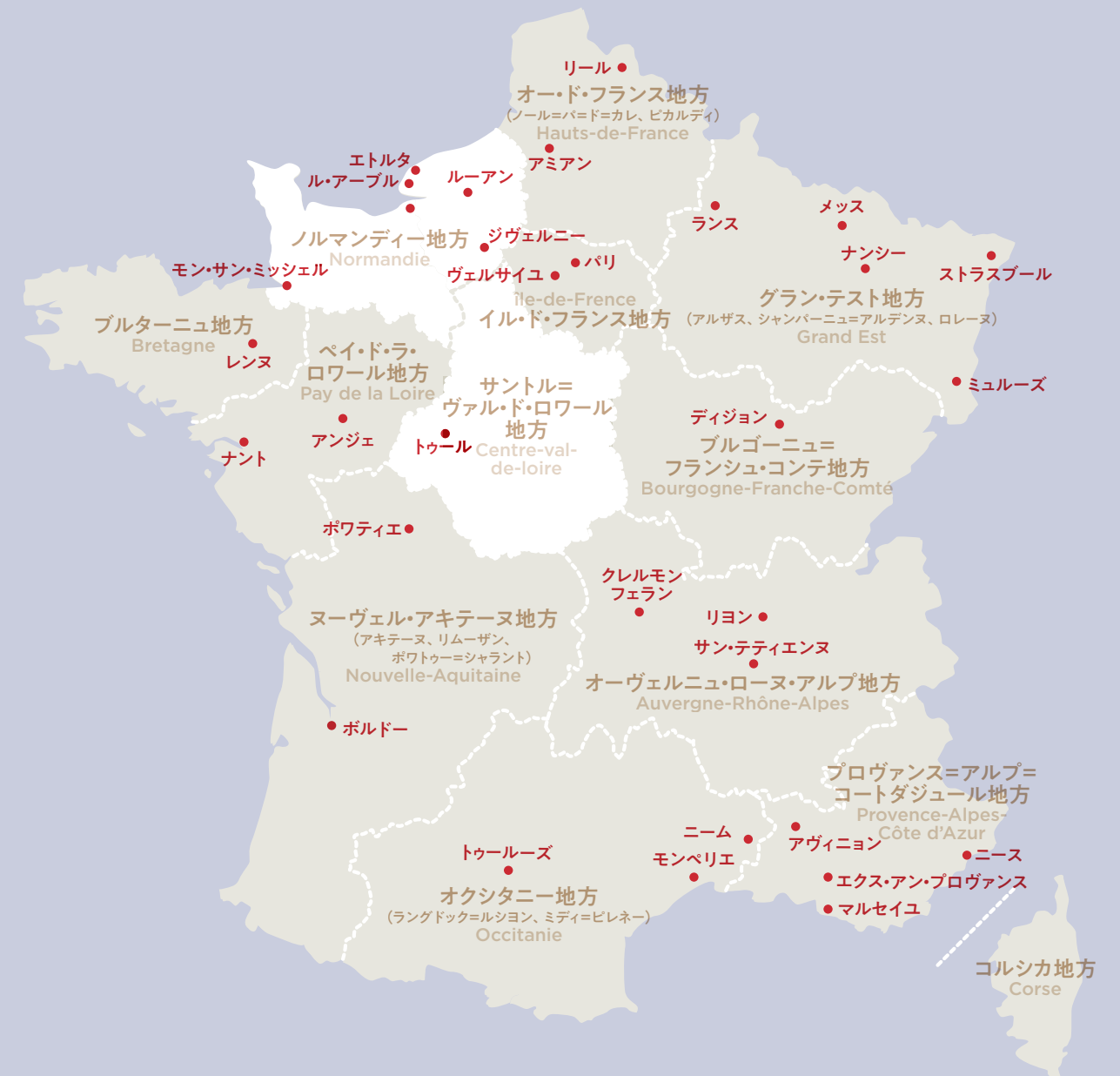
### 今年のピックアップデスティネーション



印象派発祥の地として知られる  
ノルマンディー地方  
**Normandie**



フランス王家ゆかりの城が並ぶ  
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方  
**Centre val de loire**





## Campagne 2019

# 「フランスに乾杯！」 キャンペーンとは？

フランス旅行の2大テーマであるアート（芸術）とお酒をテーマに、地方の魅力を訴求する観光キャンペーン。キャンペーンの期間中、フランス観光開発機構の公式サイト [jp.france.fr](http://jp.france.fr) 内にできる特設ページにて、この二つのテーマが体験できる観光スポットやアクティビティの情報を発信いたします。ピックアップ・デスティネーションは北西フランスで印象派の発祥地として知られるノルマンディー地方、そしてパリの南に位置し、フランス王家ゆかりの城が並ぶサントル・ロワール地方の二つです。

## Thème

# なぜアートとお酒が テーマに？

アートもお酒も、フランス各地の地域性を的確に表現するもので、どちらも土地の風土に加え、作り手の創造性が加わり生み出される芸術です。日本ではフランス画家の名作を扱う美術展が多く企画開催され、それらがフランスの風土を知るきっかけとなることが多いもの。実際にそれらの名作が生まれた土地を旅することで、感動をより深くすることができます。また、フランス各地のワインが広く流通する日本では、ワインがフランスのイメージ形成に大きく寄与しています。当キャンペーンでは、日本ではまだ知名度がそれほど高くない産地のワインや、ワイン以外の飲み物を取り上げ、フランスの多様な地域への関心と旅心を訴求します。

## Kit Presse

### 報道・プレス関係者の皆様へ

報道目的のご利用でお使いいただけるキャンペーン関連画像は、下記からダウンロード頂けます。

[bit.ly/2Xuwwsp](http://bit.ly/2Xuwwsp)

公式ロゴ



キービジュアル



横



## Concours

# フランス体験レポーターを募集！

ノルマンディーとロワール地方の『アートと銘酒巡りの旅』を体験するレポーターを2名2組（計4名）募集します。2016年次のキャンペーンから開始した一般公募による体験レポーター制度は今年で4回目となります。応募方法は次のとおり。



### ① 応募動画を撮影する。

レポーターとして立候補する熱意を1分以内の動画で伝えて下さい。応募する二人が一緒に動画の中に映っていることが条件となります。ビデオカメラでなく、スマートフォンによる簡単な撮影でもOKです。



### ② 応募動画を自分のSNSにアップする。

自分のSNSアカウント（Twitter, Facebook, Instagram）にハッシュタグ「#フランスに乾杯」をつけて動画を投稿してください。



### ③ キャンペーンサイトの応募フォームに必要事項を記入する。

キャンペーンサイト <https://jp.france.fr/ja/campaign/kanpai> 上の応募フォームに必要事項を記入してください。

\*応募期間：4月25日から5月20日午後23時59分。

レポーターに選ばれた2名2組は7月中に、ノルマンディー、ロワールそれぞれの地方へ、銘酒とアートを探求する旅に出発していただきます。旅の様態を撮影した動画は9月にキャンペーンサイト上にて公開いたします。

## Agenda

# 運営スケジュール

4月25日	特設サイトオープン、体験レポーター募集開始
5月20日	体験レポーター応募〆切
6月上旬	体験レポーター選考終了、発表
7月	体験レポーター、フランス旅行
9月	体験レポーターの動画を特設サイト上にて公開
11月30日	キャンペーン終了

## Site officiel

# キャンペーンサイト

※2019年4月25日オープン



<https://jp.france.fr/ja/campaign/kanpai>

#フランスに乾杯



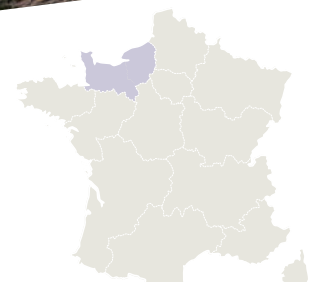


# フランスに 乾杯 グラスいっぱいの芸術を

# NORMANDIE

ノルマンディー地方

ノルマンディーで乾杯!



世界遺産登録地モン・サン・ミッシェルや、印象派のふるさととして知られるフランス北西部のノルマンディー地方。海と田園地帯の間に広がる土地は、光と影が絶妙に織りなす空気に、印象派画家をはじめ多くの芸術家が魅了されてきました。ダイナミックな景観あり、多幸感あふれる牧歌的な景観ありと、景色の多様性も魅力です。シードルやカルヴァドスなど、リンゴから作られるお酒がロマンティックな旅を盛り上げます。

### 3世紀にわたるカルヴァドスの歴史、 クリスチャン・ドルーアン

1960年、クリスチャン・ドルーアン・ペールは、オンフルール近くのゴンヌヴィル山地のフィエフ・サン・タンヌの土地を取得しました。そこでシードル用のリンゴを栽培するうちに、クリスチャンはカルヴァドスを製造したいと思うようになります。1969年、息子のクリスチャン・ドルーアン・フィスが父親の事業に参加します。10年ちかくを外国で暮らしたクリスチャン・ドルーアン・フィスは、会社を国際的に発展させようとしています。彼はまたカルヴァドスの熟成にも熱心に取り組み、やがて貴重なビンテージ・カルヴァドスを専門に生産するようになり、今では高級ホテルや高級レストランに納品しています。  
ドーヴィルからわずか15分、オンフルールから20分のところにある当社では、年間を通じて観光客の見学を受け付けています。  
[www.calvados-drouin.com](http://www.calvados-drouin.com)

### ノルマンディーを代表するお酒

フランス北部にあるノルマンディー地方の気候はブドウの栽培に適さないため、ワインは造られませんが、その代わりに特産のリンゴを使った酒が造られています。その代表と言えるのが発泡酒の「シードル」です。日本と違い、小粒で酸味の強いリンゴを使い、さっぱりとした飲み口に仕上げたシードルは、クリームを多用する郷土料理との相性も抜群です。また、このシードルを蒸留して造ったものが「カルヴァドス」。アルコール度数40度、ブランデーならではの方向を持つ酒で、主に食後酒として飲まれます。

1リットルのカルヴァドスを作るのに約80kgのリンゴが必要とされ、最低2年、樽で熟成されます。時の経過につれ、よりまるやかで香りの強いものとなり、「**オール・ダージュ Hors d'Age**」と称される高級品となります。なお、発酵前のシードルとカルヴァドスを合わせたものは、**ボモー**と呼ばれます。甘口で口当たりがよく、デザートとともに、あるいは食前酒とともに楽しめます。

シードルに似たものに「**ポワレ**」がありますが、これはフレッシュな洋梨の果汁を発酵させた発泡酒で、シードルよりアルコール度数が低くスッキリした味わいが特徴です。よく冷やして飲まれ、パーティの席や食前酒に好まれます。

もうひとつ、ノルマンディーを代表するお酒として、菓草酒「**ベネディクティン**」があります。16世紀にフェカンにあるベネディクト会修道院の修道士によって発明された秘酒で、27種のハーブやスパイスを使った濃厚な甘口のリキュールで、その味わいは修道院を訪れたフランス王フランソワ1世も魅了したといえます。

## Calvados



左: メゾン・クリスチャン・ドルーアン © Calvados Christian Drouin 右: リンゴの木 © Chrisitan Drouin



# フランスに 乾杯 グラスいっぱいの芸術を



フェカンのパレ・ベネディクティン © Palais Benedictine - Fécamp - France

## Bénédictine



ベネディクティン/カクテルのワークショップ

### 最高のリキュール、ベネディクティンを求めて

秘酒ベネディクティンを生み出した修道院はフランス革命後に閉鎖され、そのレシピも失われてしまいましたが、19世紀半ばに地元のワイン商アレクサンドル・ル・グランがパレ・ベネディクティンとして建物を復元させます。

パレ・ベネディクティンは19世紀に建てられた最高傑作の建築物です。フェカンのワイン卸売商であったル・グランは、リキュール、ベネディクティンの蒸留所（今日でも稼働中）と、自身のアートコレクションに豪華な建物を与えたいと思っていました。そしてその当時の偉大な専門家たちに声をかけたのです。この半ゴシック様式、半ルネサンス様式を混ぜ合わせた折衷様式の建物はその斬新さとオリジナリティで人々に驚きを与えます。

このパレ・ベネディクティンが、かの有名なリキュール、ベネディクティンの蒸留所を今も所蔵していることから、その様々な芸術的

特徴も強調することになります。装飾の多様性と豪華さによって、ここを訪れる人々は、リキュール・ベネディクティンとその創始者であるアレクサンドル・ル・グランの才能にささげられた、おとぎ話のような世界へといざなわれます。

パレ・ベネディクティンの一室では、ベネディクティンを味わい、カクテルで楽しむ方法を学べるワークショップも開催されています。嗅覚でベネディクティンを感じることから始まり、3種類の味を体感した後、ミキシンググラスとシェイカーという2つの方法でカクテル作りを学びます。カクテルの知識とテクニックを伝授してくれるのは、ドーヴィルの5つ星ホテル、ホテル・ノルマンディー・パリエール（Hôtel Normandy Barrière）のチーフ・バーテンダーにして、フランスバーテンダー協会ノルマンディー代表のマルク・ジャンです。

[www.benedictinedom.com](http://www.benedictinedom.com)

### ポワレ・ドンフロン、スマートでエレガントな洋梨の発泡酒

11世紀、スペイン北西部が産地である、シードル用の多種多様なリンゴがもたらされた時、梨の木はすでにノルマンディーに存在していました。

ドンフロン地方の人々は、ヨーロッパでも固有の梨の果樹園を所持していました。そして10万本以上の梨の木を利用し、ポワレを製造していました。その中には百近くの品種があり、年間平均で2万5千トンもの梨をポワレのために生産していました。いくつかの優れた木は1トンもの果実を実につけることができたのです。

### パロントンのポワレ博物館 Le Musée du Poiré

ポワレ博物館は、フランス国内でこの飲み物に対してささげられた唯一の施設です。アロンソンとモン・サン・ミシエルの間に位置するノルマンディー・メヌ自然公園内にある農場跡に建てられています。この博物館は完全に立て替えられました。生まれ変わった博物館では、現代的で遊び心満載の展示のおかげで、製品の進化や製造方法に関する驚くべき技術の数々をお楽しみいただけます。450以上もの品が製造方法の歴史を物語ります。博物館の周りには2ヘクタール以上の保全果樹園が広がっています。

## Poiré



洋梨「フラン・ド・ブラン」 © Gérard Houdou



ポワレ・ドンフロン瓶 © Gérard Houdou

NORMANDIE



## ノルマンディーを代表するアーティスト

ノルマンディー地方は芸術史上革命をもたらした絵画運動「印象派」が生まれ、発展した場所です。自然とモダンさを追求した印象派の画家たちは、森で、庭で、セーヌ川のほとりで、またノルマンディーの海岸でイーゼルを置きました。それらの場所は今も手付かずの形で残されています。モネが愛した麗しの里ジヴェルニー、移ろいゆく光に様々な表情を見せるルーアン大聖堂、「印象・日の出」が生まれたル・アーヴルの港、ブーダンが虜になったオンフルールの空と光、海にそそり立つ断崖絶壁があり戸外制作を好む画家たちの「母港」となったフェカン…。これらは『印象派を巡る旅.com』でも詳しく紹介しています。ノルマンディーにはまた、日本の広告ポスターにも多くの作品が使われたレイモン・サヴィニャックゆかりの地トゥルーヴィルがあります。どこかレトロな雰囲気のパネルが掛けられた海辺の遊歩道を散策してみましょう。

### 9 ルーアン Rouen

セーヌ川が蛇行する窪みにある町ルーアンは、印象派の画家たちを魅了しました。《ヴェニスのように美しい。》と、ピサロは感嘆しています。ピサロがルーアンの橋とセーヌ川沿いの近代的な生活を描き続けたのに対し、モネは、2シーズンをかけて、ゴシック建築の白眉であるルーアンの大聖堂に挑みました。様々な雰囲気を醸し出す大聖堂のファサードに魅了された彼は、絶えず移り変わる光をとらえようと、同時に14枚の作品を描いています。この壮大な仕事から、有名な28枚の大聖堂の連作が生まれ、世界各地で展示されています。

今も大聖堂前の広場にしばし佇めば、当時モネが感じた感動を体験できます。シスレーやピサロの足跡をたどり、歴史が凝縮する路地の散策や、セーヌ川をクルージング、川辺でピクニックなど、さらなる印象派体験を楽しみましょう。

## Rouen

ルーアン大聖堂、陽の当たる正面壁  
Metropolitan Museum of Art NYC



## Le Havre



クロード・モネ、『印象、日の出』  
© Musée Marmottan Monet

### 9 ル・アーブル Le Havre

太陽が霧の中から姿を現した瞬間のル・アーブル港を、早朝のホテルの窓から見て描いた作品が、印象派の名前の元となりました。モネは、暗示的なタッチで、夜明けの工業港の光あふれる雰囲気を表現しました。船のシルエット、海のさざ波、空気と水を照らす太陽の反射、モネは、こうしたつかの間の感覚を画布の上に永遠にとどめることに成功し、この傑作が美術史の流れを変えました。港はすっかり近代化されましたが、ル・アーブルの浜辺からは、今もなお、大気の変化で気まぐれに移り変わる光あふれる海の風景を眺めることができ、それはまさに印象派体験と言えます。こうした環境に囲まれて海辺にたつアンドレ・マルロー近代美術館 (MuMa) では、フランスでも有数の印象派コレクションを常設展示しています。

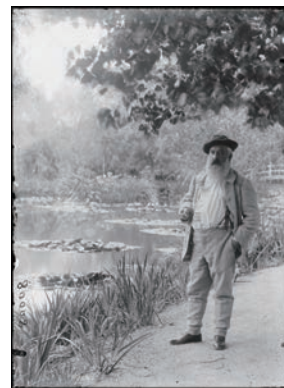
### 印象派の父クロード・モネ

パリで生まれ、ノルマンディー地方で育った若きクロード・モネ (Claude Monet) は、風景画家のウジェーヌ・ブーダンによって見いだされ、ブーダンは彼に浜辺で描くことを勧めました。モネは屋外で描くことを発見し、生涯を通じて屋外で描くことに情熱を抱き続けました。1874年、モネは、パリの写真家ナダールのスタジオで行われたグループ展に参加し、新しいスタイルの表明とみられている作品『印象、日の出』を出品しました。そして、これが、印象派の時代の始まりとなりました。

モネに成功が訪れたのは1890年代のことです。この時代、モネは、美術史に残るいくつかの連作を含む数多くの作品を発表し、その中でとりわけ有名なのが1894年のルーアン大聖堂の連作です。

ウール県のジヴェルニーに家を買って身を落ち着けたモネは、生涯をそこで過ごします。彼の贅沢な庭は、彼にとっての一番のインスピレーションの源となりました。彼の最後の大作のひとつである巨大な『睡蓮』の連作は、その庭にある日本風の池からインスピレーションを得て描かれています。

## C. Monet



睡蓮の池の近くを歩くモネ © RMN

### 9 ジヴェルニー Giverny

1883年、モネは、セーヌ川から少し離れたジヴェルニーに身を落ち着けます。絵を描くように庭を整備した10年後、彼は、睡蓮の池を作るという大工事に取り組みます。日本のシャクヤクやシダシヤナギやタケなどを植えて、日本風の池のある庭を作ります。おそらく日本の版画から着想を得た木製の橋が、この素晴らしい東洋風の庭のアクセントとなっています。25年以上にわたり飽くことなく、彼はこの庭からインスピレーションを得て、移り変わる水面の光の反射を絵の中にとらえようとしました。

## Giverny



クロード・モネ、『睡蓮の池、緑のハーモニイ』  
Photo: ©RMN-Grand Palais (musée d'Orsay)  
Stéphane Maréchal

### 「空の王者」、ウジェーヌ・ブーダン

製紙業と額縁工房を兼ねた小さな店を買ひ、行きずりの画家たちから託された絵画を展示していました。その中にはブーダンが自身の初めての作品を見せたジャン・フランソワ・ミレー (Jean-François Millet) も含まれていました。

1851年以降、奨学金の助けを受けながらブーダンはパリ、ルアーブルそしてオンフルールにて絵画に専念しました。

その際には貸しアパートやサン・シメオン農場 (la ferme Saint-Siméon) にて下宿生活を行っていました。そしてその場所で、クロード・モネ (Claude Monet) やヨハン・バルトルト・ヨンキント (Johan-Barthold Jongkind) といった、かの時代の最も偉大な芸術家たちと知り合ったのです。

1859年、彼は詩人であり美術批判も行っていたシャルル・ボードレー (Charles Baudelaire) と出会い、才能を開花させます。彼は景色を描くために自らのアトリエを出た最初のフランス人画家の一人でした。海をよく描いたブーダンは、空や断続的に降り注ぐ光の機微を受ける船の動きをとらえることを好んでいました。カミーユ・コロロー (Camille Corot) が「空の王者」と呼んだように、ブーダンの絵には、ノルマンディーの空の移ろいが見事に表現され、繊細な色彩感覚が溢れています。

## E. Boudin



ドーヴィルの海岸で絵を描くウジェーヌ・ブーダン

## Honfleur

ウジェーヌ・ブーダン『オンフルール港』

### 9 オンフルール Honfleur

オンフルールで生まれ、ル・アーブルで育ったブーダンは根っからのノルマンディー人でした。彼の才能を理解するには、街の中心に位置するウジェーヌ・ブーダン美術館が欠かせません。ここでは、モネ、クールベそしてヨンキントの絵画とともに、ブーダンの作品を百以上所蔵しています。テラスで満たされた波止場と、船の振動を感じられる古いドックがある趣あふれるこの小さな港の魅力に身をゆだねてみましょう。梁を持ついくつもの家が隠れている、石の敷き詰められた小道を行くと、ヨンキントとブーダンにインスピレーションを与えた特別な教会がそびえるサント・カトリヌ広場 (la place Sainte-Catherine) へとたどり着きます。オンフルールで散策をすることは、まるで絵画の中から出てきたような、ノルマンディーの忘れてはいけない大事な場所へと自らを投じることなのです。

### フェルム・サン・シメオン Ferme Saint Siméon

ウジェーヌ・ブーダン美術館に展示されているブーダンの絵画『サン・シメオン農場にて』は、気取らない食卓と、そこから生まれる賑やかな会話を表現しています。当美術館に展示される他の作品にも、ブーダンが描いた野外での昼食風景がいくつかあります。牧歌的な生活の中で日々の暮らしの喜びを感じさせます。

フェルム・サン・シメオンはかつては簡素な農場の旅籠屋でしたが、現在はスパ付きのレストラン兼ホテルです。河口の景色と庭園、心地よい暖炉付のサロンは、リラックスするのに絶好の場所です。



ウジェーヌ・ブーダン『サン・シメオン農場にて』  
© Galerie Schmit

## R. Savignac Trouville



レイモン・サヴィニャック © Yves Aublet



トゥルーヴィルのサヴィニャック遊歩道 © M. Trebaol

### レイモン・サヴィニャックとトゥルーヴィル

レイモン・サヴィニャック (Raymond Savignac, 1907-2002) は、戦後のポスターアート界に革命をもたらした、フランスで最も有名なポスター画家のひとりです。600作品以上の広告ポスターを生み出し、代表的な作品は現代まで残っています。詩的かつ簡潔な表現、愉快なユーモアに満ちた彼の作品は、ポスター史に大きな足跡を残しました。サヴィニャックによると、ポスターとは道ゆく人々の注目を引くためのものであるべきで、彼は「人々を仰天させ、共感を呼び、記憶に残る」表現スタイルを、常に探求していました。彼の全作品を通して、ごく単純化した絵柄、インパクトの強いアイデア、散りばめられたユーモア、そして何よりも、伝えるべきことを単刀直入に伝えるという基本的な表現スタイルが貫かれています。

1979年、彼は幼少期からよく訪れていた海辺のリゾート、トゥルーヴィル・シュル・メールに永住することを決めました。1987年には、街の美術館に、自らの約250点におよぶポスター作品と原画8点を寄付。さらには、街から紋章デザインの基本計画を依頼され、彼のデザインが後に正式な街の紋章として採用されました。

### ブランシュ遊歩道「サヴィニャック遊歩道」

トゥルーヴィルのノルマンディー海岸沿いに、最初の遊歩道「ブランシュ (Planches)」ができたのは、1867年のことです。2001年9月、当時存命中のサヴィニャックの作品に敬意を表して、この遊歩道を「サヴィニャック遊歩道 (Promenade Savignac)」と改名。以後ここには、彼が街のために描いたポスターのうち代表作品の複製が野外展示されており、歩行者が自由に鑑賞することができます。

### 「サヴィニャックの足跡」コース

彼が死去した2002年以降、数十にわたる彼のポスター作品の複製が、街の壁に描かれました。「ポスターは、街路に貼られてこそ、その真価を発揮します。ポスターが自分を最も表現できるのは街路なのです。」と彼は生前語っていました。街が提案する「サヴィニャックの足跡」コースを辿って、画家ゆかりの地を訪ねるのはいかがでしょう。とりわけ見どころは、旧ブランシュ遊歩道、現「サヴィニャック遊歩道」で、壁に描かれた彼の作品を鑑賞することができます。



## 最新情報・トピックス

アルマダ帆船まつり、もうすぐ再来!  
▽ ルーアン



アルマダ帆船まつり © GeorgesKyrrillos - Fotolia.com atmospheric

2019年6月6～16日

第7回を迎える、ルーアンのアルマダ帆船まつり。海洋船舶が一挙集結するイベントとしては世界最大規模を誇ります。大型の帆船から軍艦まで、50隻に及ぶ船舶とその乗組員たちが、ルーアンの街と7kmに及ぶ川沿いを10日間にわたって活気づけます。ルーアンの中心部やセーヌ沿いの各所でさまざまな催しが予定されており、すでにいくつかの展示会の開催が告知されています！各種催しは無料。ルーアンを訪れるすべての人が、世界でもっとも大きく、もっとも美しい帆船の数々を目の当たりにする機会となることでしょう。期間中の晩は、花火ショーとノルマンディー地方が主催するコンサートが行なわれイベントを盛り上げます。

[www.armada.org](http://www.armada.org)

夏季限定チーズバーで食べ比べ  
▽ リヴァロ



4種のチーズ © Fromagerie Graindorge

1910年にリヴァロで創業したE.Graindorgeは、AOP 認証された (EU 共通の高品質チーズの証) ノルマンディー地方のチーズ、リヴァロとポン・レヴェックの生産者です。工房は毎日見学者に無料解放されており、夏季 (7月、8月) は、チーズバーで4種の食べ比べ体験をすることができます。

[www.graindorge.fr/en/](http://www.graindorge.fr/en/)

印象派美術館が今年10周年  
▽ ジヴェルニー



ジヴェルニー 印象派美術館 © J-C. Louisset

2019年3月22日～7月14日

「モネとオービュルタン、二人のアーティストの出会い」展

« *Monet / Auburtin : une rencontre artistique* »

ジャン＝フランシス・オービュルタンによる油絵と素描の主要作品、そして、モネのもっとも代表的な作品の数々を集めた展示会です。二人のアーティストが同景色に注いだ異なる眼差しをご堪能ください。

2019年3月22日～11月4日

「開館10年のコレクション」展

« *10 ans d'une collection* »

クロード・モネと同時代に活躍した印象派画家たちの作品とともに、日本画やノルマンディー地方の風景写真を展示。

[www.mdig.fr](http://www.mdig.fr)

モーパッサンの作品にちなむ名前の  
ワインバー、エトルタにオープン

▽ エトルタ



© Le Bel Ami Etretat

ノルマンディー地方出身の文豪モーパッサンの作品にちなんで名付けられた「ル・ベラミ Le Bel Ami」。絵画の景色そのままの美しいエトルタにオープンしたこのワインバー/ピストロは、地元で人気のレストラン/ホテル「ル・ドンジョン (Le Donjon)」のオーナーが新たに手がけたもの。地元で採れた新鮮な食材を使った地中海風の料理、独立系の生産者から仕入れた上質なワインを味わうことができます。

[lebelami.com](http://lebelami.com)

ルーアン大聖堂のライトアップ  
▽ ルーアン



ルーアン、光の大聖堂 © la CREA

2019年6月1日～9月15日

日没後のルーアンの大聖堂に投影される、音と光のスペクタクル。無料です。

<https://en.rouentourisme.com/cathedral-of-light/>

モン・サン・ミッシェルでの特別体験

① 修道院の夜間観覧

2019年7月～8月

「モン・サン・ミッシェル年代記」その2  
「戦闘」と名付けられたナイトツアー。

毎日 (日曜除く) 19時～24時。

[www.abbaye-mont-saint-michel.fr/en/](http://www.abbaye-mont-saint-michel.fr/en/)



© Marc LEROUGE - CRT Normandie

② モン・サン・ミッシェル湾を裸足で渡る

干潮時あるいは満潮時、モン・サン・ミッシェル湾は、周辺に生息する動植物、移ろう光や水に映し出される影など、秘密をあこれと明かしてくれます……。裸足で湾を渡るガイド付きツアーで、モン・サン・ミッシェルの素晴らしい景色をご堪能ください。潮位の変化には危険が伴うことがあるため、ガイドなしで湾を渡るのは禁止されています。

[www.cheminsdelabaie.com](http://www.cheminsdelabaie.com)

[www.decouvertebaie.com](http://www.decouvertebaie.com)



© Nadia Le Coguic

③ 大潮のモン・サン・ミッシェルを見に行く

ヨーロッパ大陸の海でもっとも満潮の差が激しいモン・サン・ミッシェル湾。上げ潮になって潮位係数が110を超えると、モン・サン・ミッシェルは、数時間、陸地から切り離されて島となります。2019年の大潮の日は3月21～24日、4月20～21日、8月31日～9月2日。1日2回、潮の満ち引きが生み出す驚異を目の当たりにしてみませんか。

[www.ot-montsaintmichel.com](http://www.ot-montsaintmichel.com)

2020年に開催決定!

## ノルマンディー印象派フェスティバル Festival Normandie Impressionniste

2020年4月3日～9月6日

地元を代表するイベントとしてすっかり定着したノルマンディー印象派フェスティバルは、数年に一度の開催で、次回の開催が2020年に決定しました。会期中に200を超えるイベントを予定し、世界中から訪れる皆さまをお待ちしています。ノルマンディー地方に豊かに残る印象派画家の足跡にインスピレーションを得て開催するこのフェスティバルは、2016年には100万人以上を迎え、今回のフェスティバルはそれ以上の来訪者が見込まれています。5か月間にわたり、展覧会、コンサート、映画の上映、ライトアップショー、ピクニックやオープンエアイベントなどなど、あらゆる世代に向けて、予算別に楽しめるさまざまな催しが行なわれます。

[www.normandie-impressionniste.eu](http://www.normandie-impressionniste.eu)



© Jean-François Lange

### 会期中に予定される主な特別展

ルーアン美術館

Musée des Beaux-Arts de Rouen

▽ ルーアン

2020年4月3日～9月7日

「印象派の情熱」展

*Une passion impressionniste*

本展は、裕福な実業家にして思慮深き収集家フランソワ・ドゥポワが所有した700点に及ぶ作品から、55点のシスレー作品、20点のモネ作品、さらにはルノワール、トゥールーズ＝ロートレック、ピカソら巨匠の作品を展示する初の企画です。

「彩りの生」展 *La vie en couleur*

印象派の収集家たちの中でもっとも知られた一人である、写真家アントナン・ペルソナの偉業に捧げる展覧会。

「レオン・ジュール・ルメートル — 1850年から1905年まで」展

*Léon Jules Lemaître (1850-1905)*

ルーアン派を代表するアーティストであり、印象派、新印象派の画家として活躍したルメートル初の回顧展。

<http://mbarouen.fr/fr>

マルロー美術館 MuMa

▽ ル・アーブル

2020年9月20日～(終了日は後日決定)

「照らされた夜」展 *Nuits électriques*

主な展示作品は、19世紀から20世紀の画家たちを魅了した夜の都市を描いたもの。印象派の時代の夜の都市が、電灯やガス灯によって徐々に明るくなったさまに迫る。

<http://www.muma-lehavre.fr/>

カン美術館

Musée des Beaux-Arts de Caen

▽ カン

2020年4月3日～9月20日

「働き盛り! —— モネ、ドガ、ゴッホ、勤苦労働を見つめた画家たち」展

*Au travail ! Monet, Degas, Van Gogh, peintres de la société du labeur*

1870年から1914年までの展示作品から、当時の労働の現場、その変容を紹介する展覧会。カイユボット、デュフィ、ゴッホ、マネ、マティス、モネ、ピサロ、シニャック、シスレー、ソローリヤの作品が集結。

2020年5月16日～8月30日

「フェルナン・レジェ - 郊外の景色」展

*Fernand Léger, paysages de banlieue*

2020年5月16日～9月20日

「ジェラール・フロマジエ」展

*Gérard Fromanger*

<http://mba.caen.fr/>

ウジェーヌ・ブーダン美術館

Musée Eugène Boudin à Honfleur

▽ オンフルール

2020年6月6日～9月20日

「海の色」展 *Les Couleurs De La Mer*

シャルル＝フランソワ (1817-1878) とカール (1846-1886)、ドーヴィニー親子が戸外で描いた作品を、これまでになく視点から紹介する展覧会。

[www.musees-honfleur.fr](http://www.musees-honfleur.fr)

ジヴェルニー印象派美術館

Musée des impressionnistes Giverny

▽ ジヴェルニー

2020年3月20日～7月14日

「戸外で描く - コローからモネまで」展

*Peindre en plein air. De Corot à Monet*

2020年7月25日～11月1日 (仮)

「アメリカ人画家の見た風景」展

*Le Paysage vu par les Américains*

フランスで印象派が盛んだった時代に、アメリカ人画家たちが取り組んでいた風景画を俯瞰する展覧会。

[www.mdig.fr/](http://www.mdig.fr/)

プレスコンタクト

Comité Régional de Tourisme de Normandie

ノルマンディー地方観光局

Mariska TREBAOL

マリスカ・トレバオール

[m.trebaol@normandie-tourisme.fr](mailto:m.trebaol@normandie-tourisme.fr)

Tel: +33 (0) 2 32 33 67 68

[www.normandy-tourism.org](http://www.normandy-tourism.org)

NORMANDY





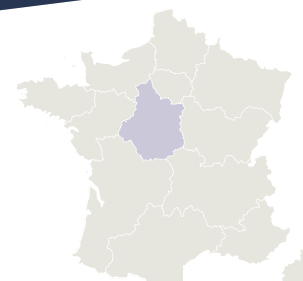
# フランスに 乾杯

グラスいっぱいの芸術を

## CENTRE VAL DE LOIRE

### サントル・ヴァル・ド・ロワール地方

ロワールで乾杯！



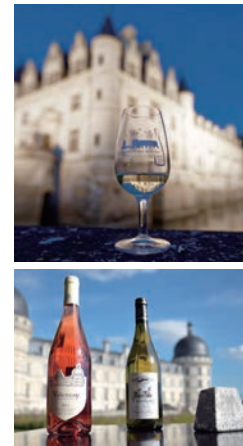
パリ・イルドフランス地方の南側に位置するサントル・ヴァル・ド・ロワール地方は「フランスの庭」とも呼ばれ、東西をゆったりと流れるロワール河の流域にフランス王家ゆかりの古城や庭園が点在し、その雄大な景観がユネスコ世界遺産に登録されています。フランス・ルネサンスが花開いた土地であり、建築、造園から食卓に至るまで、その形跡が見られます。ロワール流域のパラエティ豊かなワインもこの地方を巡る大きな楽しみです。

#### ヴーヴレの秘密は、ブドウ品種にあり！

ヴーヴレ Vouvray は、トゥール Tours から数キロのところに位置する小さなコミューンです。ロワール川が流れ、丘の斜面には岩をくりぬいた住居やワイン生産者のカーヴが多く見られます。ヴーヴレの名はとりわけロワールワインの AOC (原産地統制名称) としても知られ、主に軽発泡性の白ワインが作られています。ヴーヴレのブドウ畑は 2000 ヘクタール以上の面積を誇り、海洋の影響でおだやかな気候に恵まれています。畑が川沿いにあるために秋に晴天が多く、その恩恵でブドウの過熟・貴腐化が促進されます。太陽光をたっぷり浴びた高糖度のブドウからは、柔らかくまるやかな風味のワインや、甘口のワインができます。ヴーヴレのワインはシュナン・ブランという単一品種から作られます。シュナン・ブランは、フランスのみならず世界的にも白ワインの最も有名な品種の一つで、数々の名高いワインに用いら

#### ロワール河流域のワイン、歴史と味わい

フランス第三のワイン生産地で、1万ヘクタール以上のブドウ畑を擁し、**サンセール**、**シノン**、サン・ニコラ・ド・ブルグイユ、**ヴーヴレ**、クレマン・ド・ロワールなどの世界的に有名なアペラシオンがあります。ロワール地方のワインには30以上ものアペラシオンがあり、赤、白、ロゼ、発泡性、非発泡性、ドライ、セミドライ、甘口、フルボディ、フルーティーと、色も味わいも多彩で、まさにテロワールのモザイクです。ブドウの栽培品種も24種類に上り、変化に富む土壌と気候が、多彩なワインの生産を可能にし、毎年2億7千万本が、世界140か国で売られています。350か所の観光ワイナリーでは、生産者が自分の畑のテロワールについて丁寧に説明してくれます。ブドウ畑の風景は、2000年にユネスコの世界遺産に登録されました。長さ800kmのワイン街道を辿れば、他にはない風景と手つかずの自然を眺めることができます。秋には、ブドウの木は美しい赤とオレンジ色をまとい、魅惑的な風景が広がります。  
[www.vinsvaldeleire.fr](http://www.vinsvaldeleire.fr) [www.vins-centre-loire.com](http://www.vins-centre-loire.com)  
**イボクラス Hypocras (ルネサンス風ワイン)** イボクラスは、ルネサンス時代を代表するスパイスワインのひとつ。白ベースのものは食事の始まりに、赤ベースは、消化を助けるエビス・ド・シャンブル(砂糖やハチミツ漬けたスパイス)と一緒に食事の最後に飲まれていました。



上: シュノンソー城では星空の下ワイン試飲会が開かれる(2019年は7月20日) © C-Mouton / CRT Centre-Val de Loire  
下: ヴァランセのワインとチーズ © ABphotographe

### Vouvray



左: シャトー・ド・ヴァルメールのワイン © LeonardeSerres、右: © MGA Caves Duhard



### Chinon



左: カーヴ・モンプレジールのカーヴ内部(シノン)  
右: クロ・デシャトリエ Clos des Chateliers © S. Fremont / ADT37 Interiore

#### シノンは丸みがあってふくよか、そして素晴らしいボディ！

年間生産量1500万本、2300ヘクタールのブドウ畑、26のコミューン、赤ワインが85%…。これらの数字からAOCシノンのワインがヴァル・ド・ロワールの中でも他と一線を画していることがわかります。シノンはトゥールの南西にあり、ブドウ畑はロワール川やヴィエンヌ川をのぞむ石灰岩の丘や、粘土質の台地に広がっています。この土壌の違いで、石灰質の土壌で栽培されるブドウからは、長期保存可能なしっかりしたコクのあるワインができます。一方で、砂や砂利の軽い土壌で育ったブドウのワインは、やわらかく口当たりがまるやかです。この違いはブドウ品種のカベルネ・フランによるところも大きく、単一品種ですが多形性で、さまざまな土壌に適應できるのです。赤はやわらかくコクがあります。色合いは紫がかかった赤で、赤色果実や黒色果実のコンポートを思わせる芳香で、前菜からチーズ、デザートまであらゆる料理に合わせられます。白は全生産量の3%、このアペラシオンの173の生産者のうち44軒だけで作られています。フローラル感、ミネラル感があり、爽やかな味わいで、柑橘系の香りがします。ロゼはバラ、赤色果実、グレープフルーツのアロマがあり、食前酒として高評価されています。シノンには、王の居城が残り、ガロ・ロマン時代に遡る歴史や、シノンの知名度向上に大きく貢献した作家フランソワ・ラブレールもいます。ラブレールは16世紀の人間主義の作家で、小説『ガルガンチュア』と『パンタグリユエル』、そして「よく食べる」と「よく生きる」という思想の持ち主として知られています。シノンのワインがこれほど愛されるのは、そこに人と人を結びつける人間主義という彼のユニークな遺伝子が息づいているからでしょう。

#### ロワールワインの宝、サンセール

ブドウ畑の広がる谷間にロワール川が流れ、それを見下ろすように火山がそびえます。サンセール村の牧歌的な風景は、ワイン愛好家そして「本物」を愛する人々から喜ばれています。サンセールで生産されるワインの62%が国外輸出されます。これはこのワインが国際的に知られ、高級レストランで飲まれていることを意味します。白ワインが最も有名ですが、赤、ロゼも作られています。AOCサンセールのブドウ畑は3000ヘクタールにおよび、3種類の土壌があります。まず粘土・石灰質の土壌、つぎに黄色でやわらかい白亜質、そして粘土と燧石の混合土壌です。サンセールワインには2品種のブドウが使われ、ソーヴィニヨン・ブランが80%、ピノノワールが20%、生育土壌によって、タンニンの強さなど、大きく違ったワインができます。サンセールの白は、爽やかで繊細、白色果実(白桃、ナシ、リンゴなど)や柑橘類、トロピカルフルーツのアロマがあります。サンセールの赤はピノノワールの特徴をたいへんよく表しています。味はしっかりといて余韻があり、赤色果実、黒色果実のアロマがあります。サンセールのすぐ隣に、シャヴィニヨル Chavignol という小さな村があり、ここにもクロタン・ド・シャヴィニヨルという別のAOCがあります。小ぶりな山羊のチーズで、熟成度に幅があり(フレッシュ、セミドライ、軽く青みを帯びたもの、ブルー)、サンセールの白と相性抜群です。村の眺望と地元の名産品を堪能するのなら、サンセールの村にあるトゥール・デ・フィエフ Tour des Fiefs へどうぞ。ロワール川とブドウ畑の眺めを360° 楽しめます！

### Sancerre



上: サンセールのブドウ畑 © D-Darrault / CRT Centre VdL  
下: サンセールワインのテイस्टینگ © JD DSC2988

CENTRE VAL DE LOIRE



## ロワールで感じるアート

中世末期から17世紀初頭に栄え「フランスの庭」と称されたロワール河流域には、フランスの王たちが暮らしました。彼らがイタリアから招いた職人、庭師、建築家、芸術家らに作られた城館や邸宅とともに街や農村部が変貌を遂げ、フランスにおけるルネサンス発祥の地となったのです。今日でもフランスを代表する建築の数々（シャンボール城、アゼール・リドー城、ヴァランセ城、シュノンソー城、ブロワ城のフランソワ1世翼棟）にルネサンス建築の例が見られます。これには、レオナルド・ダ・ヴィンチやベンヴェヌート・チェッリニといった芸術家が大きく貢献しました。

庭園がアートとして認識されたのもルネサンスの時代でした。芳香植物を楽しむ閉ざされた庭園に代わり、広々としたスペースと展望の開けた敷地、幾何学模様の花壇、噴水や滝による装飾がもたらされたのです。

ロワールにおける庭園アートは進化しながら現在に受け継がれています。ショモン・シュル・ロワール城で行われる国際庭園フェスティバルがその最も良い例で、毎年異なるテーマに沿って有名な造園家による30の実験的庭園が造られます。また、城の敷地内には、世界的な造形アーティストが制作する独創的なインスタレーションが行われます。

## ルネサンス芸術から現代芸術へ

ルネサンス時代は、建築、文学、哲学、音楽、科学、美食、園芸、そして芸術全般と、あらゆる分野で盛んに創作活動が行われ興奮に満ちた時代でした。2019年、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方は、《ルネサンス500年祭》と銘打ったイベントを通じ、現代芸術のネットワークを有するなど、今もルネサンス時代の活発な創造と革新の精神を受け継いでいることを示します。《ルネサンス500年祭》のコンセプトは、過去と現在を結ぶ歴史のかけ橋を作ることです。

## Renaissance contemporain



アンボワーズ城、メナジヨの絵画 © L. de Serres

ショモン・シュル・ロワールの庭園にあるインスタレーション (グアルー) carré et rond © E-Sander

### アンボワーズ城 Château royal d'Amboise

5月から2部構成の展覧会を予定しています。1つは、フランソワ1世の腕に抱かれ死の床に臥すレオナルド・ダ・ヴィンチを描いたフランソワ・ギヨーム・メナジヨの巨大な絵画を展示する歴史についての展覧会、もう一つはその絵画のいくつかの部分で6㎡の画布に表現したイタリアのグラフィック・アーティスト、ラヴォRAVOによるストリートアートの展覧会です。

### シャンボール城 Château de Chambord

《1519年—2019年：シャンボール、ユートピアから作品へ》と題した展覧会を開催し、この過去と現在の架け橋を表現します。展覧会の第一部では、城の建築の歴史をたどり、第二部では、国際的な現代の建築家たちが想像するヴァル・ド・ロワール地方を代表するこの城の未来を紹介し、シャンボール城史上最大の展覧会です。

### クロ・リュセ城 Château du Clos Lucé

レオナルド・ダ・ヴィンチのアトリエが専門家の研究により忠実に再現されるほか、6月からは『最後の晩餐』のタペストリーが展示されます。レオナルド・ダ・ヴィンチの同名の作品からインスピレーションを得て制作されたこの巨大なタペストリーがヴァチカン美術館を離れフランスで展示されるのは初めてのことです。

### ショモン・シュル・ロワール城 Château de Chaumont-sur-Loire

毎年、国際庭園フェスティバルが開催されます。2019年のテーマは《天国の庭》です。世界中から選ばれた20人ほどの造園家た

ちの作品が、フェスティバルの一環として、4月から11月までの期間、展示されます。それと同時に、芸術・自然センターでは、敷地内と城の壁に、世界各国の芸術家の現代作品を展示します。そして2019年の芸術シーンを代表する芸術家の一人がノーベル文学賞を受賞した中国人芸術家の高行健です。《新たなルネサンスへの呼びかけ》と題した彼の展覧会が開催されます。

### リヴォー城 Château du Rivau

庭園内に巨大な彫刻を展示し、過去と現在をつなぐ架け橋を作ることを目指した《ルネサンスへの現代的オマージュ》展を開催します。



## Hommage à la Renaissance

リヴォー城

このほかにも多数の展覧会が開催され、ロワール河流域地方は、2019年、まさに「芸術に乾杯!」と言うにふさわしい場所となります。ぜひ、お越しください。《ルネサンス500年祭》関連の展覧会のリストは、下記のサイトでご覧いただけます。

[www.vivadavinci2019.fr](http://www.vivadavinci2019.fr)



## L. Da Vinci

### レオナルド・ダ・ヴィンチ、時代の予見者

レオナルド・ダ・ヴィンチは、1516年に、フランソワ1世の招きでアンボワーズにやってきました。当時64歳の彼は、『モナリザ』、『洗礼者聖ヨハネ』、『聖アンナと聖母子』という3点の傑作絵画と、手帳と、人生を通じて書き溜めた手稿やメモを持参しました。フランソワ1世は、ダ・ヴィンチを

「王の一番の画家にして、技術者にして、建築家」と呼び、アンボワーズの王家の城のすぐ近くにある当時のクロ城（現在のクロ・リュセ城）を自由に任せ、彼が思うままに創作に励み生活できるよう王侯貴族並みの手当てを受けました。

クロ・リュセ城で弟子に囲まれて暮らすレオナルド・ダ・ヴィンチの元には王侯貴族や大使や芸術家仲間が訪れ、彼は、絵や建築や哲学や舞台など様々な分野の活動に精力的に取り組みました。

レオナルド・ダ・ヴィンチは、複雑な舞台装置、豪華な装飾、生きた絵画、自動人形、音と光の特殊効果などを考案して、王家の壮大な祭りを企画し演出しました。建築家で都市設計家でもあったレオナルド・ダ・ヴィンチは、ルイーズ・ド・サヴォワとフランソワ1世の依頼で理想都市を設計し、この都市は、アンボワーズから70km離れたロランタンに作られるはずでした。

## F. Rabelais



ドゥヴィニエール館に飾られたラブレールの肖像画 © F. Delong / CRT CentreVdL

### フランソワ・ラブレールにアートに酔いしれる

「ガルガンチュア風のGargantuesque」——フランソワ・ラブレールの作品と人柄を表すのにぴったりの言葉です。

ラブレールは、15世紀の終わりにシノンChinon近郊で生まれました。彼の物語は今もこの地方に生き続けています。

ラブレールの生家ドゥヴィニエール館Manoir de la Devinièreの門を入ると、そこにはガルガンチュアとパンタグリユエルを生み出すことになるラブレールの世界が広がっています。ここには若きラブレールが幼少期を過ごしたころの雰囲気が残っているのです。15世紀当時のままの家、岩をくりぬいたカーヴ、果樹や野菜が植えられた庭、ブドウ畑、ほのぼのとしたのどかな風景。この環境は彼に大きな影響を与えました。彼の作品には、その生まれ故郷を思わせる描写が見られます。現在、この地域はラ・ラブレージー la Rabelaisieと呼ばれています。

フランソワ・ラブレールは、はじめ修道士になり、その後医学を勉強します。しかし文学に強い憧れを抱いていた彼は、40歳ごろに短編作品を書き、作家活動を始めます。そして1532年と1534年に『パンタグリユエル』と『ガルガンチュア』を出版し、その名を知られるようになります。気まぐれで、大きな図体をして、人生を謳歌する二人の主人公は、当時激しく批判され、本はすぐに出版を禁じられてソルボンヌ大学の神学者たちから断罪されます。しかしこ



左: アンボワーズ城とレオナルド・ダ・ヴィンチ © L. de Serres  
右: クロ・リュセ城のレオナルド・ダ・ヴィンチ・パークには、モナリザの肖像が大きな布にプリントされ飾られている © Château du Clos Lucé - L. de Serres

んにち、これほど多くの解釈や注釈が加えられている作品はほかにありません。

フランソワ・ラブレールはルネサンスを代表する芸術家です。この時代、あらゆる分野が熱狂状態にあり、芸術、文学に新しい流れが生まれました。楽しく、健康的で、いつも大盤振る舞いをしながら仲良く生きる——堅固な人間主義に支えられたラブレールの価値観は、ルネサンス時代に起こった、考え方の根本的な変化を象徴しています。「よく食べること」と「よく生きること」も、ルネサンス時代に食習慣を大きく変えました。

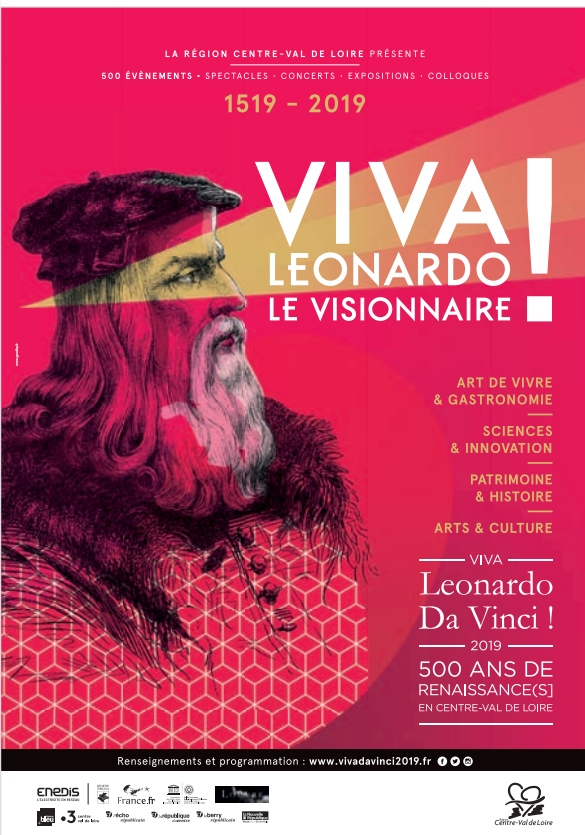
ルネサンス500年となる今年、ドゥヴィニエール館とシノン近郊では、フランソワ・ラブレールにちなんださまざまなイベントを催します。『ガルガンチュア風の』プログラムは、こちらをご覧ください。

[www.vivadavinci2019.fr](http://www.vivadavinci2019.fr)



ドゥヴィニエール館の内部 © F. Delong / CRT CentreVdL





## 《ルネサンス500年祭》 Viva Leonardo da Vinci!

2019年は、シャンボール城の建築の開始、そしてレオナルド・ダ・ヴィンチがアンボワーズのクロ・リュセ城で亡くなってから500年目にあたります。

中世末期から17世紀初頭に栄え「フランスの庭」と称されるロワール河流域（ヴァル・ド・ロワール）では、そこにある様々な街や城にフランスの王たちが暮らしました。この豊かな政治、文化、遺産の歴史によって、このエリアはフランスにとってルネサンス発祥の地となっているのです。

14世紀イタリアで生まれたルネサンスは、シャルル8世とフランソワ1世によって、フランスのサントル・ヴァル・ド・ロワール地方に伝えられました。フランスの王たち、そしてイタリアからやって来た職人、庭師、建築家、芸術家たちは、城、教会、公共建築物、館、木骨軸組の住宅、邸宅などを建設することで、この地域の街や農村部を変貌させました。こうして新しいライフスタイルと建築法をもたらしたルネサンスのおかげで、この地方はすばらしい発展をとげ、今日でもフランスを代表する建築が多数残ります。シャンボール城（1519）、アゼ・ル・リドー（1518）、ヴァランセ（1520）、シュノンソー（1514）、プロワ城のフランソワ1世翼棟（1515）などがその例です。これには、レオナルド・ダ・ヴィンチやベンヴェヌート・チェッリニといった人々が大きく貢献しています。

2019年、ロワール流域全土で、ルネサンス500周年を祝う特別なイベントが繰り広げられます。展覧会、スペクタクル、科学的な講演、史跡での特別見学ルート、デジタルアートなど、あらゆる芸術分野であらゆる表現方法にて、ルネサンスにちなむ催しが企画されます。

### 見逃せないもの

#### 「1519年、レオナルド・ダ・ヴィンチの死：神話の構築」

1519. LA MORT DE LÉONARD DE VINCI : LA CONSTRUCTION D'UN MYTHE

##### ♀ アンボワーズ城

2019年5月2日～8月31日

レオナルド・ダ・ヴィンチの滞在500年を記念して、アンボワーズ城はレオナルド・ダ・ヴィンチの死をめぐる展覧会を開催します。2019年5月2日からは、フランソワ＝ギヨーム・メナジヨ François-Guillaume Ménageot による絵画《レオナルド・ダ・ヴィンチの死 La mort de Léonard de Vinci》（1781）が展示されます。

#### フランソワ1世のために絹と銀糸で製作されたダ・ヴィンチの傑作「最後の晩餐」のタピスリー

EXPOSITION « La Cène de Léonard de Vinci pour François Ier, un chef-d'oeuvre en or et soie »

##### ♀ クロ・リュセ城

レオナルド・ダ・ヴィンチ・パーク

2019年6月6日～9月2日

1519年5月2日にクロ・リュセ城でダ・ヴィンチが亡くなってから500年を記念して、彼の有名なフレスコ画をもとに作られた「最後の晩餐」のタピスリーが展示されます。



© Gouvernorat de l'État de la Cité du Vatican - Direction des musées du Vatican, tous droits réservés.

このタピスリーがイタリアのヴァチカン美術館以外の場所で展示されるのは今回が初めてです。この作品は、1514年以前にルイズ・ド・サヴォワとその息子フランソワ・ダングレーム（未来のフランソワ1世）のために製作されました。フランソワ1世は1533年、息子のアンリ2世と法王の姪カトリヌ・ド・メディシスが結婚する際に、このタピスリーを法王クレメン7世に贈りました。会期中はそのほかに、国内外の博物館やクロ・リュセ城の所蔵品約30点が展示されます。

#### 音と光のナイト・スペクタクル SPECTACLE NOCTURNE SON ET LUMIÈRE

##### ♀ アゼ・ル・リドー城

2019年8月～9月

城の周囲に緑豊かに広がる19世紀の自然庭園で、音と光のスペクタクルが行われま

す。幻想的なキャラクターとともにすばらしい探検に出かけましょう。アゼ・ル・リドー城は、水に浮かんだような繊細ですらりとした姿で、夢と想像の世界へいざないます。このスペクタクルは、普遍的な意義を持つ発明と発見の精神をテーマに、ルネサンス、偉大な発見（地理、天文学、印刷術、科学、技術など）、人文主義、イタリアからもたらされた新しい芸術運動（古代美術から着想を得たもの）などにつながる大きな主題をあつかいます。



アゼ・ル・リドー城 © N. Koenig

#### 国際建築コンクール《ユートピアから作品へ DE L'UTOPIE À L'ŒUVRE》

##### ♀ シャンボール城

2019年5月～9月

シャンボール城では築城開始から500年を祝い、展示会《シャンボール1519-2019: ユートピアから作品へ Chambord 1519-2019: De l'utopie à l'œuvre》を開催します。城の過去と未来を考える、今までにない内容です。ユートピアという観点から、シャンボール城のすべての時代の姿を見せるというもので、ルネサンス時代の関心事や夢、城の建築家としてのダ・ヴィンチの地位などが素描、絵画、模型、オブジェ、デジタルツールなどで表現されます。この展示会では、過去を知ることに加えて初めての試みも行われます。世界中の有名大学の約20の建築ラボが、シャンボール城を21世紀のユートピアとして自由に作り替えるのです。

### 《ルネサンスの味覚》

#### ヴァル・ド・ロワール地方に息吹くルネサンスのエスプリ…食卓もまた然り!

##### ♀ レストラン各所

アーティチョーク、フォーク、ショウガの共通点は何でしょう?実はこの3点、ルネサンス時代に登場し、ヴァル・ド・ロワール地方の食卓と食のアートを大きく変えたのです! その500年後、この地方のレストラン業界関係者が結集して16世紀の食文化を称え、ここを訪れる21世紀の私たちにその味覚を再現します。

42のレストランによる《ルネサンスの味覚 Goût de Renaissance》キャンペーンでは、5～9月にかけてルネサンス時代のメニューを提供します。当時、シナモン、クローヴ、サフラン、ナツメグやショウガといった香辛料が、料理に重要な役割を果たしていました。ほとんど全ての料理にはもちろん、イポクラシス Hypocras というワインにまで香辛料が使われたのです。甘くてスパイシーなこのワインは、冷やして料理と一緒に味わいます。砂糖もまた非常に貴重で、塩味と甘味のどちらの料理にも使われましたし、フルーツの砂糖漬けやフルーツのペーストは、デザートとして供されました。当時、砂糖も香辛料も、社会的ステータスの目安だったので。

そこで、《ルネサンスの味覚》メニューは、ルネサンス時代の食材やレシピに敬意を表し、それをもとに提供されます。アスパラガスとそのジュース、ひよこ豆のスープ、ナス

のケーキ、レモン風味の鶏肉の煮込み、鶏のレバーの串焼き、洋ナシの砂糖ワイン漬け。いかがですか? とっても食欲をそらされるでしょう!

##### 参加レストランのサイト:

<https://www.vivadavinci2019.fr/actualites/un-gout-de-renaissance/>



クロ・リュセ城内のレストラン「オーベルジュ・ブリウレ」では、ルネサンス時代のメニューが食べられる © L. de Serres / Château-du-Clos-Luce

#### ヴァル・ド・ロワール地方に響くルネサンス音楽

画家、技術者、建築家としてのレオナルド・ダ・ヴィンチはよく知られていますが、彼が国王の祝宴のオルガナイザーでもあったことはあまり知られていません。国王のために舞踏会や大宴会を企画し、そうした会には必ず音楽がつきものでした。そこでサントル・ヴァル・ド・ロワール地方では、このルネサンス500年祭にあたり、音楽もテーマに取り上げます。ルネサンス音楽の様々なコンサートが、夏の間に行われます。特にルネサンス音楽専門グループ「ドゥルス・メモワール Douce mémoire」が奏でる最も美しい音楽のショーは、ブルジュからヴァランセー城、アンボワーズ城、シャンボール城、そしてトゥールで開催されます。



アンサンブル・ドゥルス・メモワール © DR

9月末、クロ・リュセ城では毎年、ルネサンス音楽ヨーロッパ・フェスティバルが開かれます。第14回目の今年も、ルネサンスと

バロック音楽のスペシャリストであるスペインの音楽家ジョルディ・サヴァール Jordi Savall が、彼自身の選曲による演奏を披露します。またサヴァール氏は、6月28日～7月13日に行われるシャンボール・フェスティバルにも登場します。今年のテーマはイタリアです。アンボワーズ城では、5月中旬～8月中旬にかけて、イタリアの名曲をアレンジした音楽祭、《アヴァンティ・ラ・ムージカ Avanti la Musica》が開催されます。



ルネサンス音楽フェスティバル © Château du Clos Lucé - Léonard de Serres

ルネサンス時代には、舞踏会もとてもよく行われていました。ランジュ城での特別企画、《ルネサンス式に踊りましょう Dansez à la Renaissance》では、当時はやったブランブル branle（民族舞踊）、パヴァーヌ pavane（ゆっくりした舞曲）、ガイヤルド gaillarde（陽気なダンスや曲）といった踊りが紹介され、ダンスのレッスンやルネサンス時代の結婚式の再現も予定されています。ここでの練習の成果は、5月18日にリヴォー城、7月25日にアンボワーズ城で開かれるルネサンス大舞踏会でぜひお披露目を! もちろん、当時の衣装で踊ってくださいね!

#### プレスコンタクト

Comité Régional de Tourisme de Centre-Val de Loire

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方観光局 プレス担当

Estelle VANDENBROUCQUE  
エステル・ヴァンデンプルック  
e.vandenbroucque@centre-valde Loire.org  
Tel: +33 (0)2 38 79 95 08

[www.loirevalley-france.co.uk](http://www.loirevalley-france.co.uk)







## 空の上のフランスへようこそ!

エールフランスからはじまるフランスの旅

### 機内から始まるフランスの旅

エールフランス航空は1952年より日本に就航し、現在も日本とパリを便利に結んでいます。羽田、成田、関西の3空港から最大毎日4便の直行便を運航。さらに、2019年春からは羽田路線の昼便も増便し毎日運航となるので、選べるスケジュールでさらに効率的で便利な空の旅をお手伝いいたします。パリへの旅はもちろん、パリ シャルル・ド・ゴール空港からは、豊富なネットワークでフランス各都市へとスムーズなアクセスをご提供いたします。機内に一歩足を踏み入れるとそこはもうフランス。いち早くフランスを体験できるのは、エールフランスだけです!

日本路線スケジュール [☑](#)

### 空の上の映画館でくつろいで

エールフランスでは、1,200時間を越えるエンターテインメントプログラムをご用意しています。映画は最新作の人気映画をはじめ、フランス映画やハリウッド作品、邦画、人気のテレビ番組など毎月変わる豊富なプログラムからお選びいただけます。音楽は、独自のセレクションによるAIRFRANCE MUSICのコンテンツをはじめ、最新ヒットからクラシックまでお好みにあわせてお楽しみください。フランスに着く前からフランスカルチャーが体験できるのはエールフランスならではの。フランス映画に浸りフランス語のシャワーを浴びて、フランス気分を盛り上げて旅しましょう。

機内エンターテインメント [☑](#)



### Menu à la carte



今春からア・ラ・カルトミールに登場したフォション・メニュー

### エールフランスで美食を堪能!

機内では、美食の国フランスをご満喫ください。空の旅は、シャンパンでの乾杯からスタート。エールフランスでは、すべてのクラスでシャンパンをお楽しみいただけます。エコノミークラスの機内では、お食事前にシャンパンや豊富なドリンクから選べる食前酒とスナックをご用意いたします。温かいメインディッシュはフランス料理または和食の2種類からお選びいただけます。フランスのチーズとあわせて、空港内で出発時間に合わせて焼き上げた、本格的なパンをご提供。お食事と一緒に、エールフランスが特別にセレクトしたフランスワインをお楽しみください。お食事後には、コーヒー、紅茶や食後酒でお寛ぎください。また、エコノミークラス・プレミアムエコノミークラスでは事前注文制の有料のア・ラ・カルトミールをご用意。日本発は3種類、パリ発では5種類のメニュー(13ユーロから28ユーロ)、からお選びいただけ人気を呼んでいます。この春からは、新しく FAUCHONメニューやHEALTHYメニューも登場。

機内での食事をおアップグレードして、空の上でのグルメ体験をお楽しみいただき、より充実した旅の時間をお過ごしください。

エコノミークラスの食事 [☑](#) ア・ラ・カルト ミール [☑](#)

## フランスに乾杯! エールフランスの旅なら...?

### ビジネスクラスでパリ5ツ星ホテル監修の オリジナルカクテルをサービス

エールフランス航空はビジネスクラスでオリジナルカクテルのサービスを始めました。数々の伝説に彩られた五ツ星の老舗ホテル、ランカスター・パリの女性チーフバーテンダーが特別なレシピを創作、食前酒のサービス時にご提供します。カクテルは年に2回、春夏、秋冬に新作が発表されます。必ず入っているのは最高のフランス産の材料、そしてシャンパンのトッピング。最新の2019年春夏カクテルは女性チーフバーテンダーがフランス南部の子供時代の思い出からひらめいたカクテルです。サクランボとライムの香りにローズマリーリキュール、白桃の果汁をミックス。それに甘いウッディな風味のフランス領マルティニーク産のラム酒、サン・ジェームスを加え、思いがけないマッチングの妙が生まれました。仕上げには全ての客室で提供される、エールフランスの代名詞とも言えるシャンパンを加えて華やかに。

### Coctail



### LINE 公式アカウントがスタート! おトクな情報をお届け

エールフランス航空は昨秋にLINEの公式アカウントをオープン。お得な航空券やキャンペーン情報をいち早くご案内します。また、エールフランス航空がおすすめるフランスやヨーロッパの旅行情報をご提供。LINE公式アカウントを通じて航空券の予約、購入、フライトの運航状況の確認など、旅行に便利な機能に24時間いつでもスムーズにアクセスできます。アカウントへの登録は、スマートフォンからQRコードを読み取るか、@airfranceでID検索すれば簡単に友だちに。いち早く友だちになって、とっておきのニュースを!

LINE公式アカウント [☑](#)



## Le Balcon



©Felipe Ribon

### パリ、シャルル・ド・ゴール空港2Eターミナル、 ホールLの最新ビジネスラウンジ

エールフランス航空の最も新しいビジネスラウンジはパリ、シャルル・ド・ゴール空港の2Eターミナル、ホールLにあります。全床面積3,200平米、全540席のラウンジには広々とした「リラクゼーションスペース」、シェフの常駐するオープンキッチンの「グルメテーブル」、季節の食材をお楽しみいただけるビュッフェコーナー、クラランスの施術を無料で提供する「クラランススパ」、個室サウナ、シャワースペース、有機栽培のデトックスドリンクを提供する「デトックスバー」、貸し切り可能なプライベートスペース「ル・クラブ」、専用の「キッズスペース」など、個々のご要望に応える様々な空間が用意されています。

さらに、若手フランス人デザイナー、マチュー・ルアヌールがデザインしたユニークで居心地のよいスペース、「ル・バルコン」が誕生しました。

160平米の「ル・バルコン」は地上と空の間を漂う、時の流れが止まったような空間です。優美な曲線を描く「ル・バルコン」は中央にバーカウンター、その周囲を取り囲むように半円形のゆったりしたソファが設けられています。毎日18時から22時30分までホテル ランカスター パリがエールフランス航空のために創作したオリジナルカクテルを提供しています。光輝くエッフェル塔やチュイルリー公園をイメージした「パリの気分」、上海、ヨハネスブルグ、ニューヨーク、東京など、象徴的な都市をイメージした月替わりのカクテル、「今月の都市」、フランスの豊かな風土から生まれる地方の材料を使ったノンアルコールカクテル、「モクテル」もご用意しました。エールフランス航空のビジネスラウンジでは個々のご要望に応えるテラーメイドのサービスをご提供いたします。

### プレスコンタクト

AIR FRANCE  
エールフランス航空 / KLM オランダ航空  
コミュニケーション&PR部

山本裕美子  
yuyamamoto@airfrance.fr  
FAX 03-3583-7011  
www.airfrance.co.jp





パートナー各位のご参加に心よりお礼申し上げます。

ノルマンディー地方観光局

Comité Régional de Tourisme de Normandie

**NORMANDY**

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方観光局

Comité Régional de Tourisme de Centre-Val de Loire



エールフランス航空

Air France

**AIRFRANCE** 

フランス観光開発機構 広報部

〒107-0052 東京都港区赤坂2-10-9 ラウンドクロス赤坂 9F

Tel: 03-3582-6968 [presse.jp@atout-france.fr](mailto:presse.jp@atout-france.fr)

[jp.france.fr](http://jp.france.fr)

  
**France.fr**